

したこと 見たこと 聞いたこと 感じたこと 考えたこと… 子どもたちは自由に書いていますか

生活綴方弾圧事件を追って ～戦時下の北海道綴方事件(1940~41)その実像と今日的意味～

主催：埼玉県民間教育団体連絡協議会

共催：埼玉作文の会、埼玉歴史教育者協議会、埼玉生活指導研究協議会、全国生活指導研究協議会

後援：埼玉県教職員組合、埼玉県高等学校教職員組合、さいたま教育文化研究所



生活の事実を綴ることを通して真実を見極め、ものの見方・考え方・感じ方を育てる「生活綴方教育」は、1930年頃から全国に広がった。しかし、戦時体制強化の中で、綴方教師たちは「児童に資本主義社会の矛盾を自覚させている」として、治安維持法違反の犯罪者に仕立て上げられる。弾圧は、1940年(昭和15)に始まり、全国で約300名の現職教師が検挙された。北海道では、同年11月から翌年までに56名(旧内務省資料・旧文部省資料では75名)が逮捕された。これが、小説「銃口」(三浦綾子作)の題材ともなった「北海道綴方教育連盟事件」である。

日時： 6月22日(日) 13:30開場

講演 14:00～16:00

場所： ときわ会館 5F ホール

講師： 佐竹 直子氏(北海道新聞 記者)

参加費： 500円

連絡先： さいたま教育文化研究所 048-831-4266

埼玉県勤労者福祉センター

ときわ会館 ご案内

所在地：さいたま市浦和区常盤 6-4-21

電話：048-822-4411

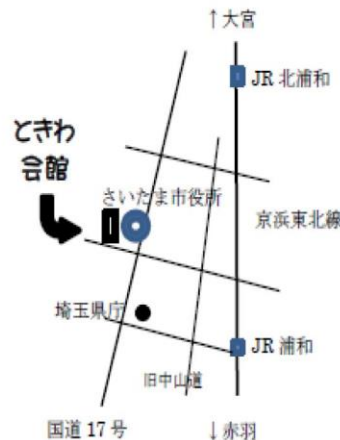
さいたま市役所(国道17号沿い)裏

・JR北浦和駅(西口)から徒歩15分

・JR浦和駅(西口)から徒歩16分

駐車場有料 23台まで

(満車の場合は近くに駐車場がありませんのでご注意ください)



講師紹介 佐竹 直子氏 (北海道新聞 釧路支社報道部 記者)

北海道綴方教育連盟事件を追って精力的に取材を続け、関係者の証言や発掘した未公開資料をもとに、昨年11月より北海道新聞に「獄中メモは問う」を連載中。

特定秘密保護法や憲法改変の問題などを抱える現在と重なる点も多く、今日的な意味の大きい連載として、教育関係者をはじめ多くの市民から注目されている。